

- 食品
- 食品添加物
- 化粧品
- 医薬部外品



北海道産 サケ由来

『コラーゲンペプチド溶液』 『アテロ化コラーゲン溶液』

技術
資料

肌の表面にとどまる高分子天然魚コラーゲン



誰もが食経験のあるサケの皮からコラーゲン分子の構造を壊さないように低温でじっくり時間をかけて抽出・精製したのがアテロ化マリンコラーゲン溶液です。サケは寒流系の回遊魚で海の表層を泳ぐ習性があるため、重金属などの汚染リスクが低いといえます。魚種をサケに限定することで安全性の高いコラーゲンを製造しています。

サケは寒流系の回遊魚で海の表層を泳ぐ習性があるため、重金属などの汚染リスクが低いといえます。魚種をサケに限定することで安全性の高いコラーゲンを製造しています。

サケのコラーゲンの変性温度は約17℃と低いのも特長です。

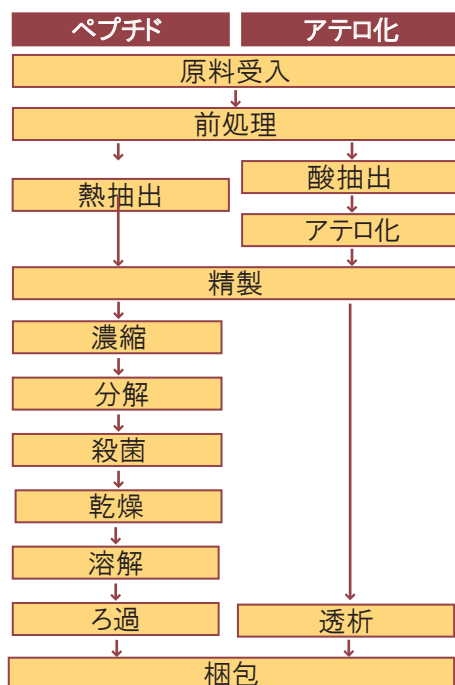
■ 期待される機能性

- ◎ 美肌効果
- ◎ 肌の保護効果
- ◎ 肌のはりや潤い向上

■ 用途提案

- ◎ 化粧品の原料として

■ 製造工程



■ 化粧品原料表示

	ペプチド	アテロ化
表示名称	加水分解コラーゲン ブチレングリコール 水	アテロコラーゲン フェノキシエタノール 水
INCI名	Hydrolyzed Collagen Butylene Glycol Water	Atelo Collagen Phenoxyethanol Water

■ 組成

ペプチド		アテロ化	
加水分解コラーゲン	10%	アテロコラーゲン	1%
ブチレングリコール	30%	2-フェノキシエタノール	0.5%
水	60%	精製水	98.5%

* 組成分析例のため、実際の製品分析値を保証するものではありません。

■ 品質規格

	ペプチド	アテロ化
原料	サケ真皮(食用部分)	サケ真皮(食用部分)
性状	淡黄色～褐色の液体で 特異なおいがある	無色～乳白色の液体で、 無臭又はわずかな特異臭
pH	4.0～9.5	4.5～6.5
重金属	25ppm以下	20ppm以下
重金属(ヒ素)	2ppm以下	2ppm以下
強熱残分	9.0%以下	0.1%以下

■ その他

	ペプチド	アテロ化
入目	1kg	
賞味期限	納品日より1年	
保存条件	冷蔵で保存	

お問い合わせ

北海道産 サケ由来『コラーゲンペプチド溶液』『アテロ化コラーゲン溶液』

■ 天然魚由来のコラーゲンが安心安全

コラーゲンは様々な原料から作られています。大きく分けると、ほ乳動物由来のものと魚由来のもの、天然ものと養殖ものに区別されます。市場に出回っているコラーゲンは低品質のものから高品質物まで様々です。

日本の市場に流通しているコラーゲンの約60%は豚由来、約35%は魚由来、他は鶏由来といわれています。ほ乳動物由来のものは、変性温度が高く、人間になじみにくい傾向にあります。魚由来のものは、変性温度が低く、人間になじみやすいといわれます。

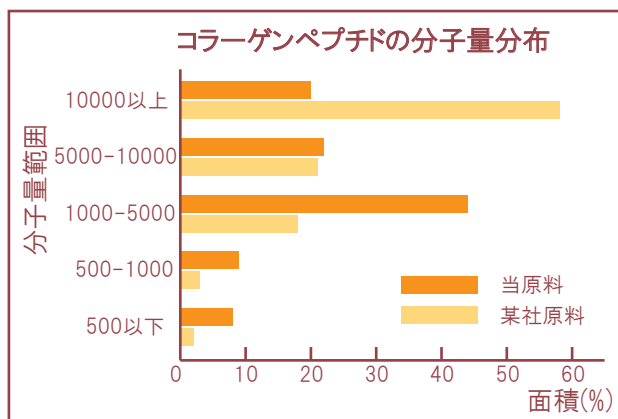
魚由来のものはフィッシュコラーゲン、スカルコラーゲンなどと呼ばれます。この内、最も多いのがティラピアという成長の早い南方系の魚を養殖し、その鱗から抽出されたものです。ティラピアは中国や東南アジアのほか、日本でも温泉地で養殖されています。ティラピアの身はタイの代用品やフィッシュバーガーの具材として世界的に使われています。ティラピアは、養殖池への殺菌剤・抗生物質の投与や密集養殖による水質などが問題視される場合があります。

サケ由来のコラーゲンは、すべて天然魚サケから抽出しておりますので、安心してご利用いただけます。また変性温度も17℃と低いことも特長です。

由来	牛	豚	魚	
概要	BSE問題以降ほとんど使われていない。	人に近く臭いも少ない。	変性温度が低いためなじみやすい。	
変性温度	39℃	39℃	8～30℃	
使用部位	皮	皮	皮、うろこ	
生育環境	養畜	養畜	養殖	天然
日本の流通	ほぼ0%	約60%	約35%	
品質	変性温度が人間の体温より高く、人間になじみにくい。		変性温度が低いためなじみやすい。	
安全性	BSE問題以降ほとんど使われていない。	ほとんどが外国産の飼料(遺伝子組み換えの危険性も)食べている。抗生物質も投与されている。	殺菌剤や抗生物質が投与されている。飼育池の水質汚染も問題。	天然が一番安心。海の汚染の問題もあるが、他に比べれば非常に安心。

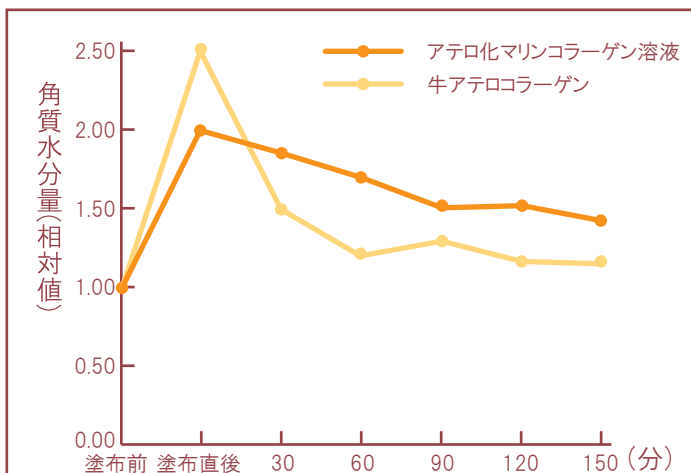
■ 分子量が小さい

コラーゲンなどのたんぱく質は酵素であらかじめ低分子に分解しておくことで経皮吸収が良くなるといわれております。他社のコラーゲンペプチドが分子量10,000の比較的大きいものが約60%なのに対し、当原料は5,000～1,000の低分子ペプチドが40%含まれています。



■ 牛コラーゲンとの保湿持続性比較

温度20～22℃、湿度40～60%の条件に被験者を30分間おいた後、皮膚にコラーゲンを0.2%塗布し(3mg/cm²)、時間ごとの電気的特性値(Skicon)を比較しました。牛由来に比べサケ由来のコラーゲンは保湿を長時間持続しました。



お問い合わせ